

令和7年度林業イノベーションハブ構築事業

第1回デジタル分科会 議事概要

日時：2025年6月18日（水）10:00～12:00

場所：東京都千代田区六番町7番地 日林協会館 3階 大会議室（Web会議併用）

(1) 事業の実施概要

質疑応答無し

(2) デジタル林業戦略拠点づくりガイドブックのあらまし

(デジタル林業戦略拠点の横展開)

- 横展開の意味としては、ワークショップを通じて「フェーズ1 コンソーシアムの形成」をどんどん増やしていく方向性だと理解した。
- 限られた予算の中で、どうやって継続的に資金を確保していくのかについては、「フェーズ3 デジタル林業の自律的展開」に至ることが目的なので、金融機関の有する知見なども引き出ししながら、上手く協力しながら進めるという方向性についてみなさんと共有したい。
- 事業の性格が違うとはいえ、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）などが推進する社会実装型の実証事業では、「出口戦略」が求められる。横展開を進めることで、「入口戦略」であるコンソーシアムの形成が進む一方で、その先の出口につながる部分は他の予算事業で後押しをいただくことも含めて、事務局がサポートすることに取り組んでいただきたい。

(デジタル林業実践事例調査および分析)

- 事例調査は、いくつかの観点で、分散するように選定すると良いのではないか。
例えば、①木材生産量が多い、②量は求めないが質が良い木材で付加価値を出している、③生産性が高いところなど。
- 農林中央金庫が実施している「公益信託 農林中金森森林再生基金（農中森力(もりぢから)基金)」も同じような観点があるため参考にしてほしい。

(デジタル林業における伴走支援ツール①) スマート林業・DX 実践のための進捗度チェックリスト

- 伴走支援のツールとして、コーディネーターが、派遣された際にチェックリストを通じて、地域の取組を確認することが重要である。
- 地域とコーディネーターが、チェックリストによって、昨年度までの取組の進捗や自走化に向けての課題について話し合う機会を設けることを必要であり、チェックリストは、地域の取組の振り返りのきっかけという位置づけだと理解した。

(デジタル林業における伴走支援ツール②) 導入効果算定（導入効果額算定表）

- 人手による作業をデジタル技術や機械に置き換えるという流れなので、コストは、人件費が減少するというかたちで検討してきたが、将来的には、既に機械化された領域をさらに高度化する場合や、人がいないのでデジタルや機械でやらなければならないといった場合についても評価が求められてくるのではないかな。そうした場合も含め、人件費等で表現できないものについては定性的な評価が必要になる。よりユーザーが使いやすいようにブラッシュアップする必要がある。
- あくまで参考値であり、評価額が高いから良いというものでもなく、バランスをみながら各々で新しい技術の導入について検討してくださいという表だと理解している。現状はExcel だが、将来的にはアプリ化するなど等、誰でも入力しやすい仕様にしてほしい。
- 事務作業に要する手間を再考するためにも良いツールであると思う。トラック輸送の実車率向上による収益増効果も検証してほしい。

(デジタル林業における伴走支援ツール③) 導入効果算定（導入効果額算定表）

- 伊呂原委員の事前意見聴取の資料からも分かるように、在庫を0に近づけるのではなく、適正な在庫量に近づけていくということを再認識することが必要である。またサプライチェーンの適正化を考えた時に、山土場の在庫だけでなく、中間土場や最終需要家も含めたサプライチェーン全体について検討する必要がある。
- 林業の現場では、地域の地形や切り方で適正な回転率が全部異なる。そのため、何か絶対的な評価をするということではなく、この考え方をを用いることが改善に結びつく現場の人たちが感じてくれるのかどうか検討が必要と思われる。

- 在庫回転率等、一般的な物流の理論は林業では考えられてこなかったので、林業の現場に持ち込めるのかについて、まずはやってみようということで進めてほしい。

(了)